

教科実践レポート

1年生 英語

Sunshine English Course 1

Program7 “The Wonderful Ocean”

授業者：森原 朋生

《研究実践のポイント》

- ◎生徒が本気で取り組める課題設定
 - ◎ペア学習で即興性や正確性を高める言語活動
 - ◎表現を深めたり高めたりする振り返り
- ⇒この3点に取り組む際に対話や議論を効果的に取り入れる

1. 生徒が本気で取り組める課題設定

Program7 “The Wonderful Ocean” は、海洋生物やそれを研究する笹森琴絵さんについての説明を中心に展開する内容となっている。誰かに何かを説明するという本単元の特徴から、新学習指導要領に示される「話すこと[発表]」－(イ) 日常的话题について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話すことができるようにする。」を目標とし、次のような単元を設定した。

単元ゴール

「小学6年生に向けて、入学が楽しみになるように中村中学校を紹介するビデオレターを作ろう！」

本単元を通して、人物や物事を説明する言語活動を設定し、分かりやすく説明したり、興味を引くように紹介したりすることで、「日常的话题について、事実や自分の考え、気持ちなどをメモをもとに整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話すことができる」資質・能力の育成を図った。

まず、本単元に入る前に具同小学校の6年生にアンケートをとり、中学校入学に向けて、①楽しみにしていること、②不安なこと、③知りたいことを書いてもらった。第1時にそれらの内容を提示し、小学生の状況やニーズを把握したうえで本単元の学習に取り組んだ。生徒はこの時点で「何を紹介する?」「自分の入っている部活動にたくさ

ん勧誘したい」など、意欲をかきたてられた様子であった。

2. ペア学習で即興性・正確性を高める活動

即興性を高める工夫として、マッピングを使用した。マッピングをもとに、1分間で即興的に中村西中学校の教師や部活動、行事についてペアで紹介し合った。



教師は中間評価で数名に発表させ、モデルとなる表現を板書していく。また、言いたくても言えなかった表現を拾い、どのように言えばよいのか全体で考える。それらを参考にしながら生徒は次のペアと先ほどの内容に工夫を加えた紹介を行う。このような“Do - Learn - Do again”と呼ばれる活動を繰り返す中で、英語での表現の幅を広げたり深めたりし、正確性を高めていこうと試みた。また、教科書の内容についても、読み取りをするだけでなく、教科書を見ながらその内容をペアで伝え合う活動（リテリング）を単元を通じて行った。

3. 表現を深めたり高めたりする振り返り


授業の終末には振り返りとして、自分が話した内容をノートに書く活動を行った。そして、生徒が書いた英作文の中からモデルとなるものを数名分選び、クラスで読み合うことによって共有した。これは、どの学年でも行っていて、生徒同士の刺激になるのはもちろんであるが、友だちが書いたものを読むことで自然に英語を読む機会が増えることも狙いとしている。また、全学年縦持ちであるため、生徒の作品を交換し合うことで英語教員のゴール・イメージのすり合わせの役割も果たし

ている。(参考：依岡先生の紹介、Program7-2 のリテリング)

Your friends' good work

Introduction of Mr. Yorioka (1-2)

Takumi Ibaragi
He is kind. He is smart. He is tall. He is dandy. He loves moss. He has nice voice. He can play the guitar.




Hanon Sakamoto
This is Mr. Yorioka. He lives in Otsuki. It's so far. He is very tall. He wears glasses. He plays the guitar. He likes Doraemon and moss. He is very cool.

Ryodai Nomura
This is Mr. Yorioka. He loves listening to music very much. Also, he plays the guitar. He lives in Otsuki town. He likes moss. He is good at moss. He was originally a soft tennis coach. He is good at painting. He is a good teacher to me.

Your friends' good work

7-2 Retelling (1-2)



Miyu Yoshimura
She is Yuki. He is Mike. She is Ms. Sasamori.
This is Nick's fin. This is Nick's family. She has a baby. Nick is angry. The baby always follows her.

Kono Nishimura
She is Yuki. He is Mike. She is Ms. Sasamori. He is Nick. Ms. Sasamori likes Nick. Nick is angry. He has a beautiful big fin. I want to see orcas.

Ayui Tsuzuki
He is Nick. They are his family. Nick loves Ms. Sasamori, so Ms. Sasamori loves Nick. Ms. Sasamori saves a lot of orcas, so she's very cool. I also want to be like Ms. Sasamori!! Orcas are cute. I love orcas, dolphins, whales, so I want to see them.

このようにして毎時間言語活動を積み上げ、単元の最後には、実際に具同小学校の生徒に向けてビデオレターを撮影した。撮影する際には、どうすれば小学生に興味を持ってもらえるのか、声の大きさや表情、英語の流暢さなどにこだわり、何度も撮り直しを申し出た生徒も多かった。(参考：生徒のビデオレター発表原稿より)

Hello. I will tell you about our brass band club. We play some music. We are training in the morning and evening. We have 18 members in the club now. This is Ms. Sozaki. She is very cute and funny. She is a brass band club coach. She can play the trumpet very well. She is a music teacher. So, she can also play the piano. Let's play some music together. Thank you.

3. 成果と課題

まず、単元ゴールを「**小学6年生に向けて、入学が楽しみになるように中村中学校を紹介するビデオレターを作ろう!**」と設定したことで、生徒が「目的・場面・状況」を明確にイメージし、意欲的に言語活動に取り組むことができた。そして、教科会では生徒に付けたい力(ゴールイメージ)を共有し、それに向かって1時間ごとに表現を積み上げていくことで、最終的に生徒全員がオリジナルのビデオレターを撮影することができた。

一方で、教師が意図する表現を引き出すための中間評価の在り方や、支援が必要な生徒にとって参考にしやすい板書については課題が残った。

この単元では、「英語科授業づくり講座」で教材検討会や公開授業を行った。他校の英語教員や教科調査官には、「生徒が生き生きと主体的に活動している」「学年が上がってさらに表現力を磨いていくのが楽しみ」と評価いただいた。これは本校の研究主題である「生徒が本気で取り組む授業づくり～対話や議論を生む課題設定～」を目指し、英語科の授業づくりの方針でもある、①楽しい授業(身近で具体的、チャレンジできる課題設定)、②分かる授業(友だちの意見を参考に対話や議論を行う中間評価)、③できる授業(個々の力を高める、自分の成長を感じる振り返り)に継続的に取り組んできた成果だと感じている。

今後も、生徒一人ひとりに力をつける授業を追求していきたい。